令和元年5月30日（木）

株式会社　久慈平岳牧場
田村　英寛

Ⅰ.(株)久慈平岳牧場の概要

1. 設立年月日:平成25年5月21日
2. 所在地:岩手県九戸郡洋野町大野
3. 代表者:
会長:田村　英寛
社長:田村　憲史(長男)
4. 従業員数:**24名**(うち外国人技能実習生8名)＋パート2名
5. 経営概要:
(1)乳用牛飼養頭数:
経産牛735頭、**育成牛365頭**(R1年5月1日時点)
(2)年間生乳出荷量　**7,176トン**(H30.1月～12月)
(3)乳成分(H30.1月～12月)
脂肪率4.15%　**無脂固形率8.97%**、**蛋白質　3.43%**
細菌数14千個/ml　**体細胞数163千個/ml**
(4)飼料基盤:畑45ha、草地30ha
6. 施設等:
○家畜飼養管理施設　3棟(コンポストバーン)
(300頭牛舎2,900.00㎡×2棟、200頭牛舎2,100.00㎡×1棟、移動通路510.00㎡)
○搾乳舎　1棟　1,683.84㎡
(50Pロータリー搾乳パーラー、牛群管理施設)
○排水処理施設　1棟　55.04㎡
○家畜排せつ物処理施設　2棟
(一次発酵棟1,398.04㎡、二次発酵棟2,210.10㎡)
○製品保管庫　1棟　1,792.00㎡

昭和50年　就農当初:**8頭**
平成5年　(有)田村牧場設立時:**75頭**
平成20年:**450頭**
平成26年:久慈平岳搾乳開始時:**622頭**
現在:**1,100頭**

【私の略歴】
昭和50年　県立久慈農林高等学校卒業後就農
昭和53年　４Ｈクラブ久慈地区事務局長
昭和58年　久慈乳牛改良同志会会長
昭和61年　農協青年部幹事・岩手県青年農業士
平成　5年　有限会社田村牧場　代表取締役就任
平成11年　いわてくじ農協酪農生産部副部会長
平成14年　(農)久慈市堆肥センター利用組合代表理事
平成15~25年　いわてくじ農協理事
平成17~24年　有限会社おおのミルク工房　代表取締役
平成23年　新いわてくじ農協酪農生産部会長
平成23年　株式会社　宝山　取締役就任
平成25年(農)久慈平岳牧場　設立
(平成２９年６月１日組織変更し農事組合法人から株式会社に名称変更)
平成26年～　岩手県酪農連絡協議会　会長
・岩手県農業法人協会会員
・岩手県農業指導士
・久慈市農業委員

Ⅱ．経営の特徴①

【牛舎施設】
コンポストバーン

出口ソートゲートと連動
しており病気治療牛など
を振り分け可能

【搾乳施設】
50Pロータリーパーラー

Ⅱ．経営の特徴②

800頭の搾乳牛に対応した生乳保冷タンク16,000ℓを2台設置

バルク内の乳温を瞬時に4℃以下に冷却することで、鮮度、風味を維持

【排水処理施設等】

浄化槽を通常の1/2～1/3の大きさにすることで電気消費量を抑制、二酸化炭素排出量が年間10トン以上削減

①原水　②中間処理水　③処理水
排水は①～③の順に浄化されます。

Ⅱ．経営の特徴③

【ふん尿処理施設等】

【外国人技能実習生の住宅】

Ⅲ. 酪農経営上の主な課題

１. 労働力の確保

２. 酪農後継者の就農減少

３. 国産飼料基盤の確保、拡大

４. 安定的で安心できる生乳出荷に向けて

課題1　労働力の確保

最近の労働環境の変化
・働き方改革（休日確保）
・売り手市場
・改正入管法施行

①雇用等の確保

当牧場の飼養規模を維持するには、従業員等の外部労働力の一定確保が必要。
⇒「住環境の整備」や「休日の確保」にかかるコストは経営者が負担

②酪農ヘルパー要員の確保、定着

家族経営体では、酪農ヘルパー制度は不可欠　（傷病、育児、介護等の他、酪農家の休日への意識も変化している）
酪農ヘルパー要員が不足、待遇面等から雇用が安定しない。
⇒酪農家側は要望どおり休日が取れない。酪農ヘルパー側も満足に休めない。

課題2　酪農後継者の就農減少

現行の酪肉近：新規就農者への支援がメイン

そもそも酪農家の後継者が継がないのは何故か？

⇒現状の設備の老朽化？頭数基盤？

専従者（従業員）が単純に1名増えるが、その分の給与を支払う余力が無い？

牛舎整備、更新や頭数拡大等への支援はクラスター事業等の補助事業がある。（希望どおり承認されないのが現状ではあるが・・・）

酪農後継者が就農後、牧場として経営基盤が整うまでの期間は経営が成り立たないところが多い。

酪農後継者が継ぎやすい環境づくりに向けたさらなる支援強化が必要！

課題3　国産飼料基盤の確保・拡大

現行の酪肉近:「生産基盤強化のために飼料費の低減が不可欠」とあるが・・・・

〇久慈平岳牧場として・・・・

現在の頭数を賄うには購入飼料に一定依存せざるを得ない。

・生産コストが高い

・海外相場に左右され、経営が安定しないリスクを常に抱えている。

〇岩手県全体として・・・・

岩手の県民性＝堅実、無理をしない

堆肥の還元先確保が優先

「飼料基盤に見合った頭数での経営」

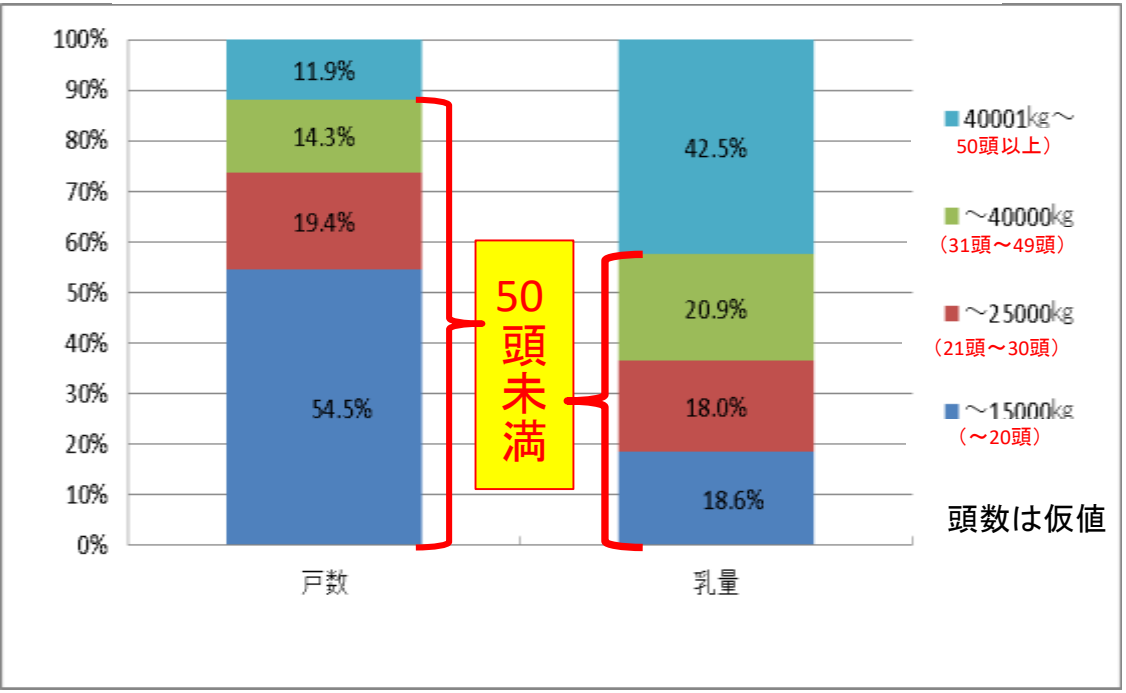
飼料基盤を増やさないと規模拡大は進みにくい。

酪農の持つ多面的機能の理解醸成
草地の有効活用、国土保全、堆肥の有効活用・資源循環　　etc.

草地造成へのさらなる支援を期待

課題4　安定的で安心できる生乳出荷に向けて

岩手県内の年間出荷乳量別の戸数と乳量の分布（H31.03月）



（岩手県の特徴）

・搾乳50頭未満の生産者が9割弱を占め、6割弱の乳量を支えている。

・岩手県、東北は、
　生乳生産量＞牛乳消費量

→消費地の関東以西への輸送が必要

〇酪農家が日々生産する生乳を売りきるには共販の仕組みが重要である。
〇畜安法の改正で「いいとこ取り」の生乳が発生し、不満や不安の声も出ている。
〇現在、生乳需給が逼迫基調にあるが、無秩序に指定団体外流通が増加することは、**安売り牛乳の助長、ひいては全体の生乳価格の低下**につながるのではないかと不安を抱えている。

ご清聴、ありがとうございました。